FARMERS Village 株式会社

代表取締役　又川　哲也さん（右端）
鞍手町／就農3年目

次から次にやりたいことがあって
楽しくてしょうがない

悩んでいたら「農業やりなよ」
と教えてあげたい

前職は、米国資本のベンチャー企業で太陽光発電事業に携わっていた又川さん。仕事を契機に環境問題に関心を持ち、農業をはじめ持続可能な社会の形成に向けた活動への転身を決意。７期生としてAGSAで学ぶことに。翌2021年にFARMERS Village 株式会社を設立し、又川さんの出身地である鞍手町で就農。

就農に際し、農地の確保に苦戦。空いている農地は、耕作放棄され雑草等が繁茂、日当たりが悪い、トラクターが進入できないといった場所しかなく、それでも土地の所有者は農業の経験がない又川さんには貸そうとはせず。ただ、前職の経験から法務局で土地所有者を調べられることを知っていた又川さんは、あきらめずに空き農地の地主を調べ、その知り合いをたどり、ついに念願の農地を確保。

なお、会社の名称「FARMERS Village」には、農業を通して、安全安心なモノを提供して、地域のヨリドコロ（Village）になるといった、又川さんの思いが込められています。

（写真はFARMERS Village㈱提供）

FARMERS Village 株式会社

栽培品目：野菜（露地）、水稲
経営面積：約3 ha（うち水稲7a）
販路：会員制の直接販売、自社レストラン
レストラン経営、レンタルスペース提供 他

Website　https://www.farmers-village.com
Instagram　https://www.instagram.com/farmers_village_/
Facebook　https://www.facebook.com/Farmers.Village2020/

有機栽培の実践

又川さんは、多品目の野菜と、昨年から試験的に水稲も栽培。BLOF理論に基づき、堆肥（有機質資材）の施用と太陽熱養生処理による物理性・生物性の改善、堆肥と有機肥料によるアミノ酸の補給、土壌分析・施肥設計に基づくミネラルの補給を実践。

また、持続可能な農業を追及し、ミネラルや有機質資材も、地域の樹木の剪定枝や落ち葉など、なるべく地元にあるものを使用。さらに２年目は、マルチを張らない、不耕起で栽培するなどの方法を試みましたが、極端な減収に。この経験で不耕起栽培は土づくりが十分にできていないと難しいと実感。

マルチも３年目（昨年）は必要な場合に再び使うようになりました。

一方、多品目の生産をBLOF理論に即して行う場合、一畝毎に土壌分析と施肥設計を要すると考え、その負担を考慮し、３年目からはあえて土壌診断をせず、野菜の成長を見ながら必要と判断した場合、栄養分の葉面散布等を行う方法に転換しています。

お米は昔ながらの天日干しで栄養価と味を最大限に高めます。

（写真はFARMERS Village㈱提供）

経営面の取組・工夫

農場は、又川さんと社員１名の２名で管理。営農に必要な機械は自己資金で調達。

「若い人を育てたい。そのために法人の形態をとった方が若い人に安心して働いてもらえる」と考え、会社（FARMERS Village（株））を設立。同社では、又川さんを含めて9名のスタッフで、農業のほか、レストラン、レンタルスペースの提供、ワークショップの開催など、同社のコンセプトに合致する多彩な事業を展開。多くの方にFARMERS Villageを知ってもらえるよう、SNSを通じた情報発信にも積極的に取り組んでいます。

生産した野菜は、会員制による直接販売のほか、自社レストランで活用。

さらに、又川さんは鞍手町の商工会青年部に加入。町の振興・発展を目的とした青年部の活動に積極的に取り組んでいます。

レストランでのおもてなしにも自社で生産した有機栽培の野菜が使われています。

（写真はFARMERS Village㈱提供）

今後の展開

有機栽培では、又川さんは、現在はあえて土壌診断とその結果に基づく施肥設計を行っていませんが、それがうまくいかなければ当初のBLOF理論に戻って生産に取り組む考えです。

一方、「今やっと経営が安定してきたことから、次から次にやりたいことがあって、楽しくてしかたがない」という又川さん。農場を色々な方を迎え入れられる場所にするとともに、子供たちが体験できるキャンプ、BBQ、食育、ボーイスカウトにも取り組み、どう生きていくかを子供たちが考える場を提供する、良い意味での昔の村（Village）を目指しています。

「つらいことがあっても次の日には忘れている。くよくよするよりも次のことに切り替えて、そのために行動したい。」

又川さんがさらに活躍されることで、消費者や子供たちの有機農業に対する理解や共感も広がっていくことが期待されます。

もっと聞いてみました！

Q. 農業と他の活動との両立は？

A. 自分は一つのことだけに集中するよりも、様々な事を行いたいタイプ。

例えば、昨日１日の過ごし方は、午前中は農作業を行い、10～14時頃までレストラン業務、その後は地域から依頼があった剪定作業などを行いました。太陽光発電の点検やPCの修理を行うこともあります。趣味を仕事として、農業の空いた時間で趣味で培ったスキルを活用しています。農業は百姓（百の仕事）と言われており、なんでもやらないといけないし、できるようになります。それを畑だけで終わらせるよりも有効的に活用して困っている人の力になるのがやりがいです。

その両立もできるのも農業です。

Q. 今年のテーマは？

A. これまでの経験から一人での活動は限界があり、皆でやっていくことの重要性に気づいたことがきっかけで、毎年、皆を一つにするテーマを設定するようになりました。今年は「結」がテーマ。組織で目標を共有して活動するには、短くて分かりやすい言葉が必要です。

Q. 就農して大変だったことは？

A. 失敗の連続です。作物の生育が良くない時は不安になり、自信をなくしました。ただ、50年以上経験のある有機農業者も今でも失敗の連続であるとの話を聞いて、気持ちの整理がつきました。同じ条件での栽培はないという難しさは、大変です。

Q. 3年目の作物の出来栄えは？

A. 三年目にして少しずつ、土が良くなっている実感があります。土が良くなると野菜の生育もよく、虫も多様化して、害虫被害も少なくなっているのを実感してます。

Q. 就農3年目にして思うことは？

A. 農業でも楽しくやっていける姿を皆さんに見せていきたい。大学を卒業して企業に勤めるだけではなくて、一般に言われているレールに乗る以外でも楽しくやっていけることを見せていきたい。「悩んでいたら農業やりなよ」と教えてあげたいです。